西洋医学における中医学の受容　～鍼術を中心に～

The reception of Chinese medicine in Western medicine　: Focusing Acupuncture

1K04A0042-1　　大窪　一勢

指導教員　　主査 志々田文明先生　　副査 石井昌幸先生

はじめに

1972 年 8 月、海外のジャーナル誌”Newsweek”において、中国伝統医学(以下、中医学)である鍼灸治療を取り上げた記事が掲載された。Newsweek 誌を契機に、中医学に対する認識は、当時の西側諸国に急速に拡大し、人々の関心を集め、医療機関においても本格的に研究されることになった。何千年という歴史を誇る中医学は、現在に至る数十年の間に、一つの大きな変化を迎えようとしている。つまり、西洋医学の立場から再編されようとしているのである。

本論の目的及び方法は、1)中医学がどのように西洋医学に受け入れられ、解釈されていったのか、2)そのことによって生じた問題点とは何か、の二点について歴史的考察を行うことである。主な参考資料としては、Newsweek 誌などの文献を使用した。

Ⅰ　鍼術について

本論に入る前に、予備的考察として鍼術の概論について述べた。『医道の日本』(出端ら,1999)によると、鍼術とは、「一定の方式に従って、身体表面の一定部位に接触、刺入し、生体に一定の機械的刺激を与え、それによって起こる効果的な生体反応を利用し、生活機能の変調を矯正し、保健および疾病の予防または治療に広く応用することである。」とされる。

Ⅱ　中医学の変遷

(1)　1972 年 Newsweek

Newsweek(1972) では、鍼灸治療を”ACUPUNCTURE”として紹介している。本章では、西側諸国に中医学に対する関心を持たせるきっかけとなったこの Newsweek 誌を引用し、そこから読み取れるものを考察のポイントとして挙げた。なお、引用した資料が英文であったため、筆者が要約した。

記事を見ていくと、当時、アメリカの病院、大学の医学部を中心に、中医学の効果を実証する臨床研究が始められたが、それを疑問視する西洋医学医師が大勢いたことがわかった。また、中医学の哲学・思想については、西洋医学の考え方では、医学というより極めて超自然的なものと捉えていた。

(2)　比較と考察-1972 年と 1993 年

過去の Newsweek 誌を見ていくと、1993 年にも、中医学に関する記事が大きく取り上げられている。本節では、1993 年の Newsweek の内容を取り上げ、1972 年のそれと比較した。すると、以下の共通点が見出された。

1)　欧米の人々にとって、中医学に対して抱く期待は大きかった。
2)　医療機関を中心に、中医学(オルタナティブ医療)の効果を実証する研究が試みられてきた。
3)　しかしながら、中医学の効果について、否定的な意見をもつ欧米の医師が多くいた。

上記の三点について考察すると、1)では、人々の中医学に対する関心という観点から捉えた。すると、米中の政治的事情という契機と、近年の疾病構造の変化という背景が、大きく影響していたことがわかった。

2)については、NIH、WHO などの医療機関の取り組みから、中医学を西洋医学のなかに位置づける姿勢が認められた。

3)について、西洋医学における中医学の解釈は、中医学の思想を切り離した表面的解釈の色彩が強い。しかしながら、中医学は、その思想と密接に関わって発展してきた。よって、西洋医学の体系に中医学を取り込むためには、中医学を裏付ける「気」の思想や「陰陽」思想等も研究する必要があろう。こうした研究の不備が、多くの欧米医師が中医学の効果について否定的な意見をもつ原因となったと思われる。

Ⅲ　結論

中医学は、政治的事情、疾病構造の変化という背景から人々の関心を集め、NIH,WHO などの医療機関において、中医学の位置づけがなされた。一方で、その効果を疑問視する欧米諸国の医師が数多くいたことは、中医学思想を切り離した中医学の解釈の結果である。

西洋医学側の一方的な中医学へのアプローチは、中医学思想が排除される恐れがある。それは、個々の患者の心身状態を重要視するという中医学の長所を奪いかねない。西洋医学、中医学のそれぞれの特徴を生かした相互補完的なアプローチが、今後の医療の課題であろう。